

# 第1章 吉野川の概要

## 1 - 1 吉野川流域の概要

### 1 - 1 - 1 流域構成

吉野川の源は、高知県土佐郡の瓶ヶ森山(1,897m)に発し、四国中央部を東流して本山付近で盆地を形成し、峡谷をつくりながら流下していきます。その後、吉野川は北流して徳島県に入り、四国山脈を横断して大歩危、小歩危の奇勝をつくり、三好郡山城町川口において左支川銅山川、右支川祖谷川をあわせた後、再び東流し、池田町より次第に平野を展開して徳島平野を貫流し、第十地点にて旧吉野川を分流しています。本流は、第十堰を越えて右岸より支川鮎喰川と合流後、徳島市北方より紀伊水道に注いでいます。

吉野川の流域面積は3,750km<sup>2</sup>であり、流路延長は194kmで四国の全面積の1/5を占めています

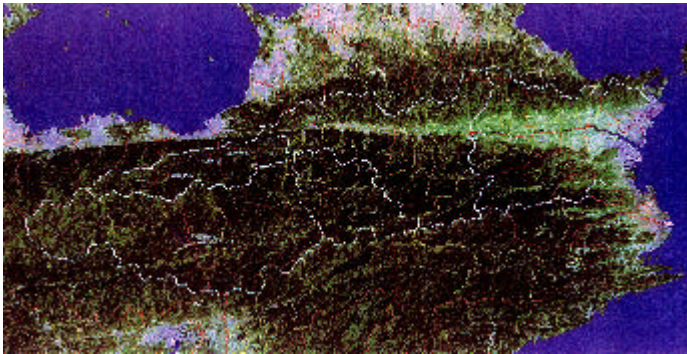


写真1 - 1 吉野川流域の衛星写真写真

写真1 - 2 吉野川源流碑 (吉野川源流パンフレットより)



図1 - 1 吉野川流域図

図1 - 1 吉野川本川・支川図

吉野川流域の年間降雨量は多いです。

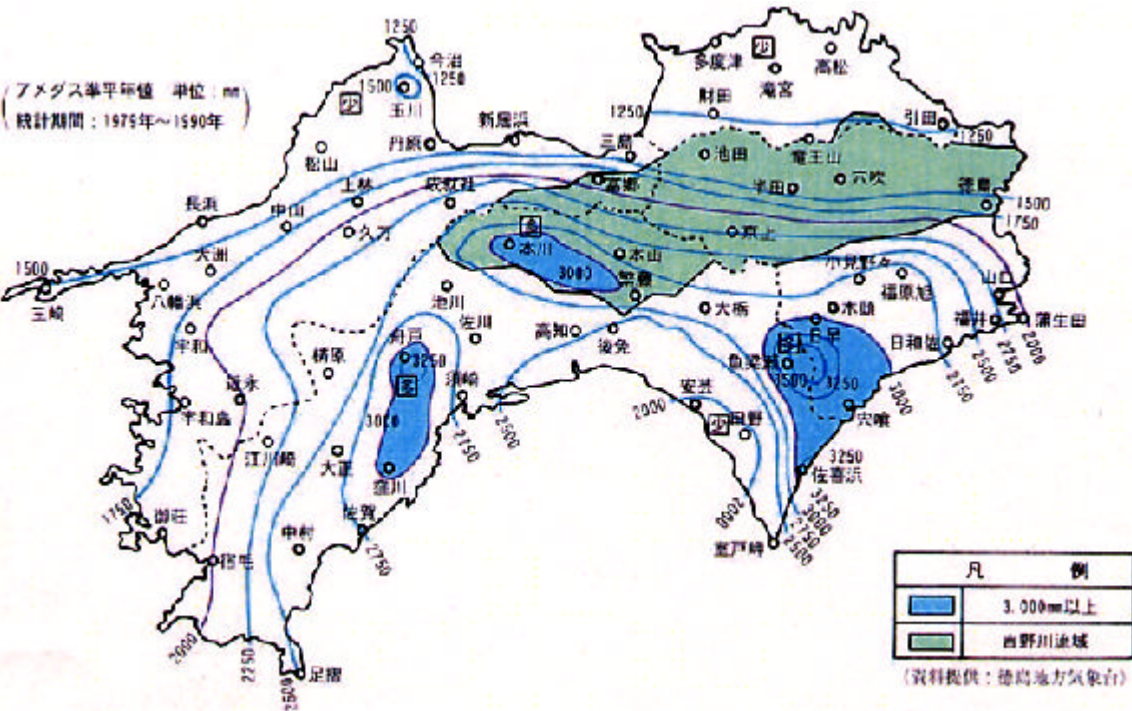


図 1 - 2 四国地方の年間降雨量

- 本川水源地の瓶ヶ森、祖谷川の水源地の剣山山脈付近：3,000mm / 年間
- 中流部の池田：約1,500mm / 年間
- 下流平野部の徳島：約1,600mm / 年間

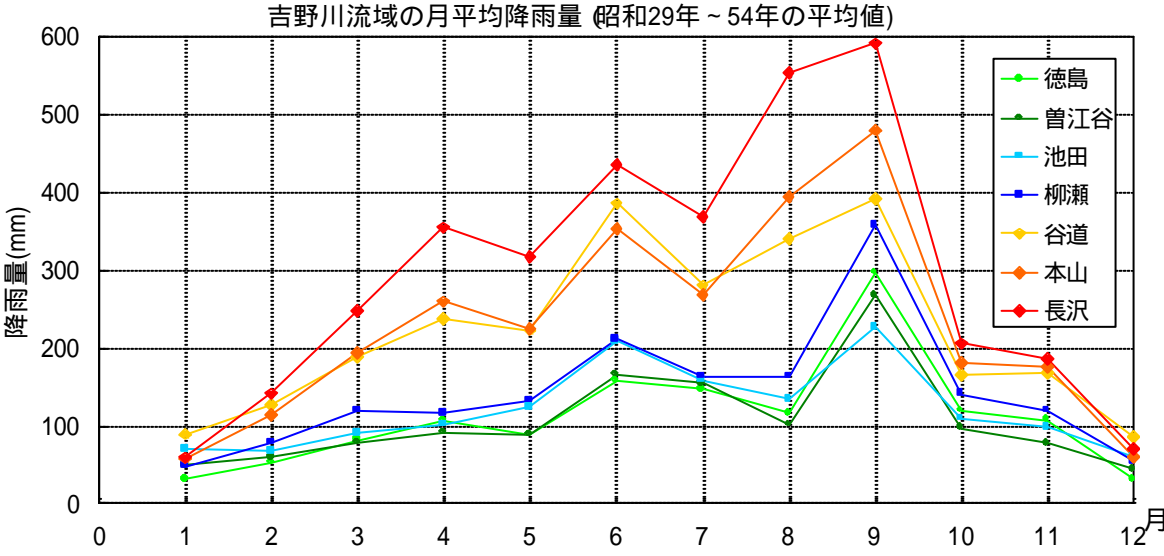


図 1 - 3 吉野川流域の年間降水量（資料：『吉野川百年史』）

- 四国の降雨量は、その多くが梅雨期の6月と台風期の7～9月に集中しています。

吉野川流域は台風の常襲地帯であると同時に台風の経路により雨の降り方も異なります。

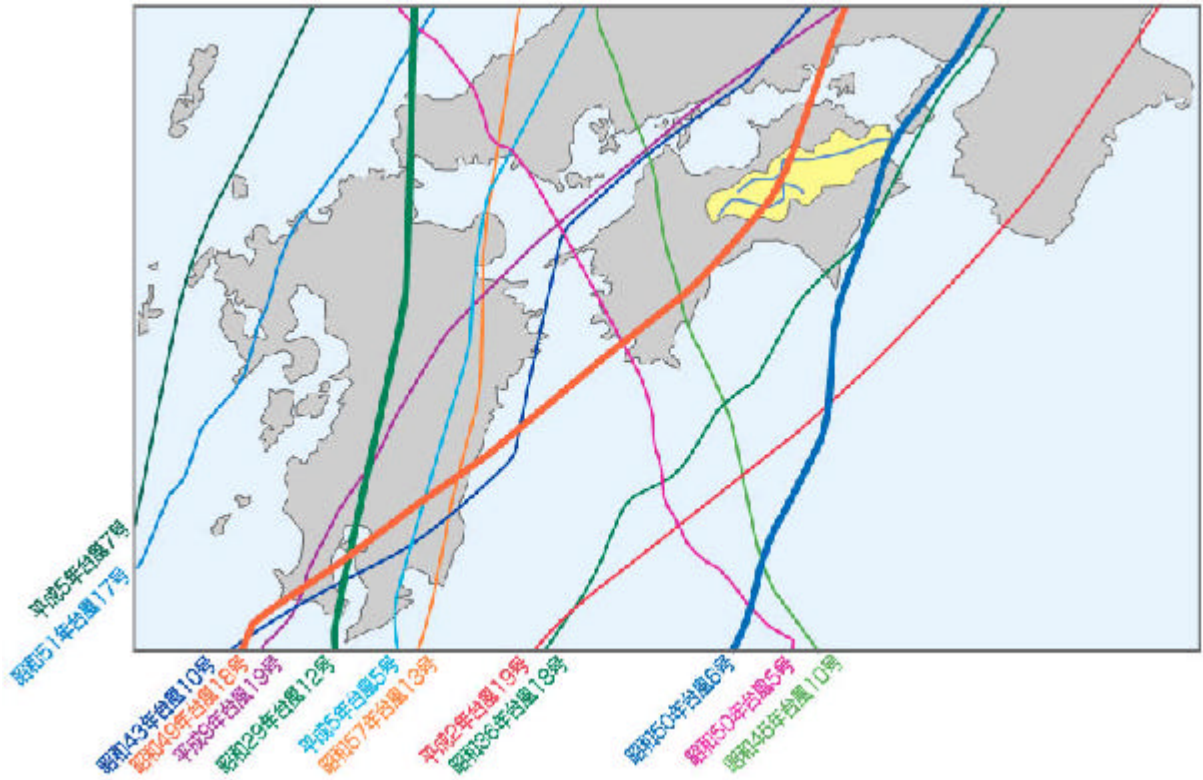
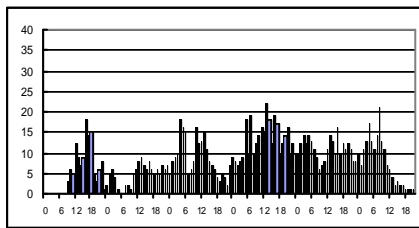
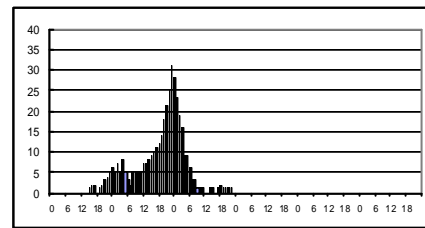


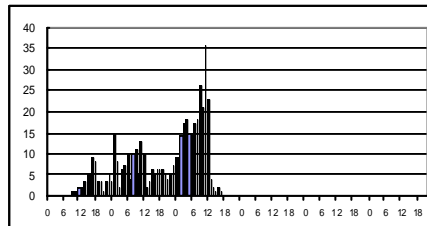
図 1 - 4 台風経路図



S 5 1 年台風 1 7 号  
(九州の西を通る台風)



S 2 9 年台風 1 2 号  
(九州と四国の間を通る台風)



S 3 6 年台風 1 8 号 (四国の東岸を通る台風)

図 1 - 6 降雨分布の代表例

洪水流量は基本高水流量24,000m<sup>3</sup>/sであり、全国でもトップクラスです。

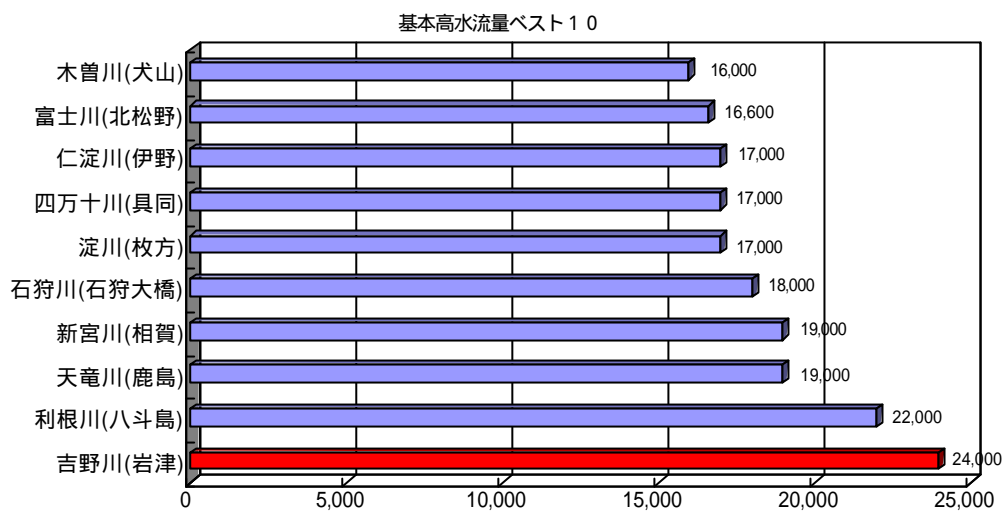


図 1 - 7 基本高水ピーク流量ベスト10

吉野川は地形が急峻で河川勾配も急なため、雨が短時間に流れ下ることから洪水量が多くなります。

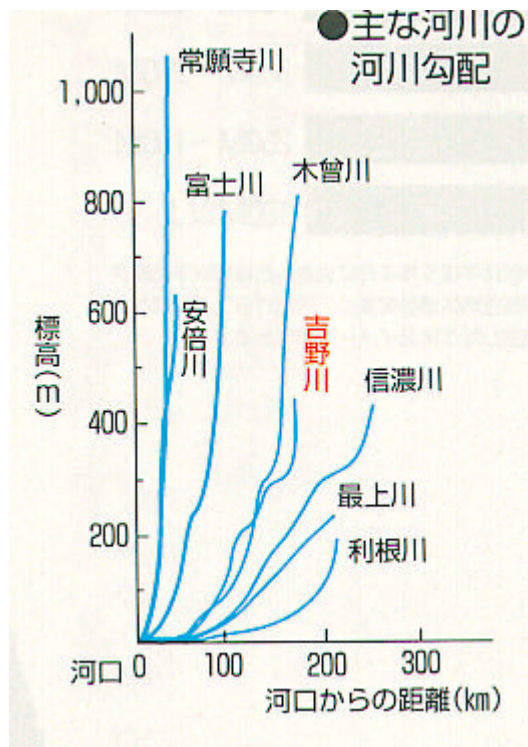


図 1 - 8 四国三郎物語 P 4 6 の図

梅雨、台風時に降雨（流量）が集中していることから河状係数（年最大流量 / 年最小流量）の値が大きくなっています。

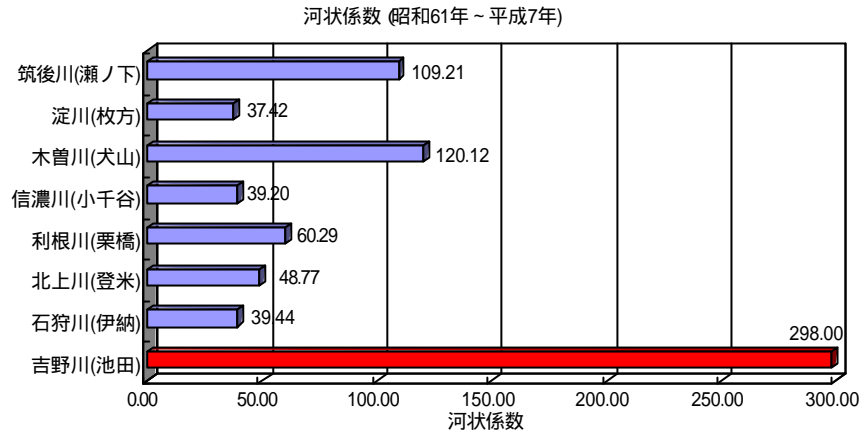


図 1 - 9 日本の河川の河状係数

吉野川流域は、大部分が起伏の多い山地であり、地質は、中央構造線、御荷鉾構造線に挟まれた三波川変成帯で構成されています。

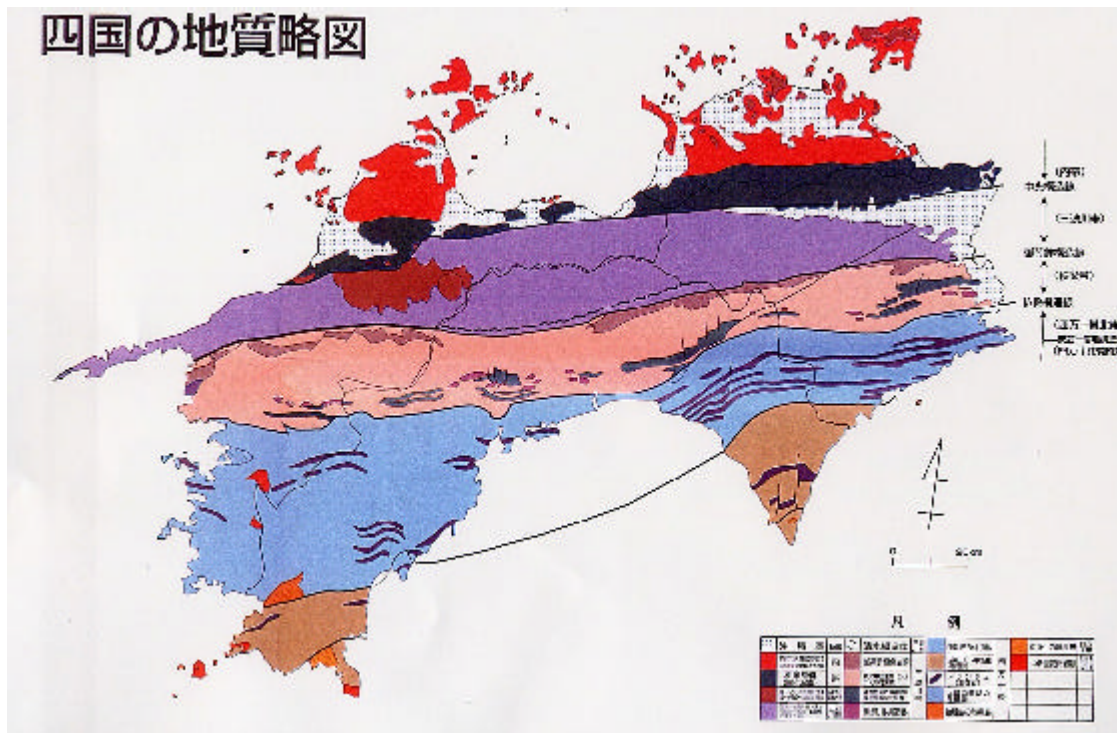


図 1 - 1 0 四国の地質図

御荷鉾構造線の南側には秩父古成層が広がっており、破碎帯すべりが多く、吉野川上流では、砂防・地滑り工事が展開されています。



図 1 - 1 1 徳島県砂防、地すべり、急傾斜指定地位置図